

刊夕日五月五

# 常磐每日新聞

発行所 常磐毎日新聞社  
〒六三〇  
平町四丁目河岸通り  
電話六〇六番

## 新貨幣論

### 金のいらぬ極樂國土建設案

神 木 鷗 津

五、不合理なる實證  
假りに他の一國がその貿易尻に於て常に金を受け取る勘定に努め、以て我が國に臨んだ場合、金の流出を防ぐためには、輸入を減じて輸出を多くせねばならぬ。そのためには、労働を少なくして生産を安く仕上げるの外ないが、労働の減収は國民生活の低下となる。最近の貿易状態にあつては、日貨は壓倒されて輸出は増加せず、そのために大養内閣は金輸再禁止を断行したが結果は國內生産品の大過剰となり、従業員の餓首となり、労働の暴落となり、失業の洪水となり、遂に深刻なる大不景氣を招來した。解禁も禁止も、その根本は金本位制の不合理に基因して國民生活を脅威することになる。これを根本的に解決するの道は、金によらざる確乎たる貨幣政策を樹立するの外はない。

六、經濟破綻の豫告  
洋の東西を問はず古來不景氣が周期的に襲來するのは、世上の富の計算は増加する一方であるのに、正貨と稱する金の量がこれに伴

は、金貨の純分を減じ、若しくは金貨の量や形を小さくする貨幣の改悪が、當時のインフレ政策であつたこのとき「惡貨、良貨を驅逐する」の名言が生れた。現代のインフレ政策とは準備金なき紙幣の濫發である。その結果は、金本位なるが故に紙幣價值は漸落し、物は暴騰する。紙幣價值の下落は、時の紙幣所有者の損失となる。マルクの暴落また暴落によつて財政的に破滅した大戦後の獨逸はその好殷鑑であつた。國家經濟の破綻を豫告するインフ

七、新貨幣制の論據

案内されて洋室に通つた時は、家人の出て来るまで出入口に近い椅子に腰を掛けて待つ。

政策は、斷じて抹消せねばならない。

而かも人類が要求するところのものは、黄金といふ冷たい金屬のものではなくして、調和せる社會生活ではないか。その圓滿生活は必ずしも金貨のみが交換受授の媒介機關でなければならぬ筈はない。民衆の欲するものは職業と衣食住であつて、その職業の賃銀は金屬でなくとも直接の生産物で足りる筈だ。新貨幣論はこの論據から出發する。

春のトレンチコート	7.50 <small>ヨリ</small>
春のバアバリー	3.00 <small>ヨリ</small>
春の正札堂特製トンビ	8.50 <small>ヨリ</small> 18.00 <small>マダ</small>
春の紺セルネツミ セル外套	4.50 <small>ヨリ</small>
春の三ツ組セビロ	7.50 <small>ヨリ</small>

平四丁目停車場通り  
**正札堂**  
電四三六番

内小全外  
科兒科般科  
醫學博士 渡部 義夫  
女 醫 渡部 きい子  
平町田町大通り(電話二七七番)  
入院應需 **渡部 外科**

是非御利用を  
營業時間午後九時迄  
平町四丁目河岸通り  
**三井 質店**  
電話六〇六番

專 門  
産 婦 科  
柳 病 科  
人 科  
科 科 科

◎入院隨意  
**井坂 醫院**  
平町田町 電話五五九番

吉田眼科病院  
平町三丁目、電話六八八番

横濱植木會社の  
**春時草花種子**が  
まいりました  
種子は輸出向きの優良質  
植木會社の特撰品です  
二丁目  
**西村藥局種子部**  
(草花種子の蒔き方)差上ます  
球根、塊根類の御注文も御受けします

懸賞尋不自轉車  
弊店名義新品車 一臺  
鑑札番號 福島縣一〇四、二八〇番  
平 六、九四一  
右新品自轉車ハ去ル三月二十二日購入セシガ、四月八日以來行衛不明トナリシ故、發見御知ラセ下サレシ方ニハ懸賞金五圓也。御届ケ下サレシ方ニハドナタニ不拘金拾圓也ノ懸賞金ヲ差上ゲマス。  
平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)

共榮漆器店  
各 國 産  
漆 器 商

吸入用酸素度 99%  
体温器  
寒 暖 計  
度量衡  
モノサシ  
マ ス  
ハカリ  
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス  
**關内藥局**  
電話四〇番



# 津浪に

## 夫を奪はれ

### 幼児を抱へて

### 泣く泣く平へ

本日町役場に幼児を抱へた女が旅費の貸與を願ひ出たので係員が事情を聞くに宮城縣牡鹿郡石巻町仲町塚田アキ(三)と稱し過般の海嘯に夫と家財を失ひ生活に窮して各地で就職を求めたが耳が不自由な爲め雇口なく徒歩で平町迄たどり着いたのであると

### 田植の講演

石城郡神谷農事試験分場の農事特別傳習會は来る九日開會本場の丁技師が田植に就いて講演すると

### 磐女体格検査

磐城高等女學校にては来る八九の兩日全校生の体格検査を行ふと

## X會の圖書展に

### 平第一校が入選授賞

將夫(六年)星野剛 吉田光弘 袖山勝伯 藁谷公

## 生活苦から

### ランペン猫自殺

清一郎(三)と判明したが去月中より小名濱町を徘徊して居たランペンで生活苦の結果らしいと

## 醫師會總會

### 来る十四日に

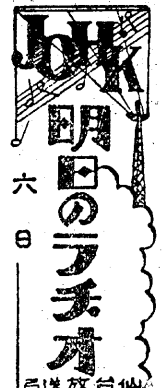
石城郡醫師會第二十七回總會は来る十四日午後一時より常磐銀行樓上に於いて開會本年度豫算に就いて協議

## X會入賞

### 審査の結果

磐城中學校第四十回X會展覽會出陳の入賞者は左の如く決定したと

- △X會賞(風景)一ノ二渡邊和夫 二ノ五北野正明 (山羊)二ノ四柴田越雄
- (歸途)三ノ一箱崎彰(牧場)三ノ三小林房治(風景)四ノ一水野秀三郎(静物)四ノ一柴田外面(機關庫)四ノ一菊地光國(收獲)五ノ一廣澤榮太郎(舟)五ノ一額賀仁(山道)五ノ一野木源一郎(炭礦風景)五ノ二吉川三郎(煙草盆)五ノ二小幡桂三(坑内)五ノ三佐藤文雄(發電所)五ノ五志賀幸雄(△美友會賞(發電所)五ノ五林武雄



今晚も明日も南西の風晴曇相半す

### 今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間 童話劇「端午の節句」B K コドモサークル
- 後七、三〇 講演「我が皇軍航空創設廿五年に當り往時を回顧して」徳川好敏
- 後八、〇〇 ピアノと管絃樂 ジェームズダン其他
- 後八、三〇 清元三社祭 清元小喜久太夫 松三郎
- 後八、五〇 連続ラジオドラマ「ジャンゲアルジャ」友田恭助外
- 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組預告

## 一圓を握らせて

### 衝突自轉車逃走

### 泥酔漢に無燈火で衝突

石城郡湯本町字傾城居住日雇業高橋益三(三)は三日午後八時頃強か泥酔して同町の國道を通行中前方より無燈火で疾走し來つた自轉車に衝突右足に全治一週間の傷を受けたが自轉車の主は高橋に一圓の金を握らしたのみで住所氏名も告げず逃走したので届出に依り平署で探査中である

### 修學旅行引卒

磐城中學校四學年生百七十名の關西方面修學旅行引卒者は廣田、山名、廣木、渡邊、庄司、鈴木の各教諭である

### 平商新舞子へ

業學校にては来る十七日新舞子へ遠足運動會を催すと

## 馬匹國勢調査

### 功勞ある調査員へ謝状

昨年十月一日實施された馬の國勢調査に際し平町の調査員及び指導員として活動せる左記十三氏に對し今回荒木陸相並びに後藤農相の兩氏より感謝狀を贈られたので近く藤田女學校に於いて傳達式を舉行する

- 田榮助 土屋健吉 渡邊 佐七 鈴木丑松 四家久 米治 藤井一 大間喜繁 佐藤伊太郎 鈴木良平 高崎晴明 大塚八郎

### 裁判所だより

平區裁判所關口判事及び小

## 明日の部

- 前九、一〇 料理献立「炊りめし」東北女子職業學校
- 前一〇、三〇 家庭講座 「園藝」島梯次
- 後〇、〇〇 五落語「マラソン結婚」林家正藏
- 後二、〇〇 家庭大學講座 後二、二〇 野球試合實況 東京大學野球聯盟リーグ 戦「明治神宮外苑球場」中継
- 後六、〇〇 子供の時間

## 童話「二本松少年隊」安倍季雄

- 後六、二五 ことばの講座 「外國語の讀かた」(一)市河三喜
- 後七、三〇 講演 後八、〇〇 ヴァイオリンピアノ二重奏 ヴァイオリン、ソアレキサンダーモギレフスキー
- 後八、三〇 新内「生寫朝顔日記」富士松加賀吉外
- 後八、五〇 連続ラジオドラマ「ジャンゲアルジャ」友田恭助外

### 給料面談(平町某)

退職を求め方

- △土工 四十八才 尋卒
- 給料面談(平町某)
- △給仕 十七才 高卒 給料面談(相馬郡某)
- △女中 三十六才 高卒 給料面談(長野縣某)
- △事務員 二十四才 高卒 給料面談(玉川村某)
- △鐵工 二十四才 讀書し 給料面談(永戸村某)

印刷物の御用命は總て  
常磐毎日印刷株式會社  
電話三六〇番

# 幕末剣術

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉演  
近藤 紫雲書

第三百三十號 佐々木見山

火の出るやうな稽古

佐々木見山は取次の門人の申すを聞いて

佐「馬が見えたか、来るだらうとは思つてゐたが」

○「馬と申すは何でございませう」

佐「馬と云ふ人間だ」

○「へ人間間の事を馬と申しますか」

佐「左様さ、秦の趙京は鹿を指して馬と云つた事もあれば人間も馬と見られる事もあらう、まづこちらへ通せ」

やがて門人の案内でそれへ来たは佐々木が淺草田圃で巾着切を懲した時に暴れた少年

佐「宜く出て来たな」

少「先日は失禮をいたしました、先生の御許しを受けて賊共を斬りましたは甚だ愉快でございました」

佐「大分怪俄をした者もあつた様だが、死んだ者はない、以後は彼等も淺草寺境内で白晝賊を働く様な事はいたすまい、町奉行より呼び出しがあるかと思つて居たが、今日に至る迄何の汰もない、さすれば斬り得たな、時に貴公は細川長門守の家來とのことであらうが

ある」

馬「是は恐れ入りました、何卒御門下の端に御加へ下されて劍道御指南に預りたき者にございます」

佐「學びたくは習ひなされるが宜い」

馬「シテ先生の劍道の御流は……」

佐「五色流だ」

馬「エ、五色流とは何者が工夫致しました劍道でございませうか」

佐「俺が工夫したものだ、諸流の長を取つて一丸となし名づけて五色流と云ふ」

長門守は熊本の細川侯の分家で三萬五千石を領する定府の大名だ

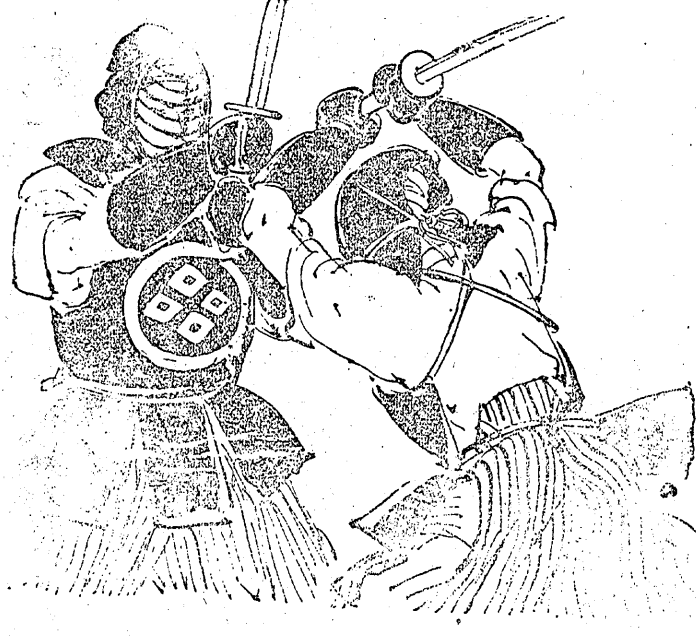
馬「左様にございます」

佐「定府と申せば江戸に許り居る者だ、さすれば貴公の御主人は江戸ッ子大名だ

馬「是は恐れ入りました、何卒御門下の端に御加へ下されて劍道御指南に預りたき者にございます」

佐「學びたくは習ひなされるが宜い」

馬「シテ先生の劍道の御流は……」



廿五六才で最も大事な處だ、それまでにミツチリ修養いたし置くに光があつる、しかしあまりピカ／＼光らしては叶かん、玉を薄布で包んだ様に淡つると光りある様にいたさぬと敵をまうけて地位が危くなるまア、こんな事は後に至つて自然と會得する」

馬「左様にございますか」

佐「まづ、修業しなさい、處で貴公は上田馬と云ふ名か」

馬「馬之助と申します、父は……」

佐「イヤ親父の名を聞く必要はない、俺は貴公を弟子とする親父の身分などを聞くには及ばない、泥棒でさへなくば誰でも弟子にするまア道場へ出て見る、どれ程出来るか見てやる」

これから佐々木は上田馬之助を道場へ連れて行つて劍術の試験をした

佐「性質は宜い様だ、しかし自惚てはいかない、藝は死ぬまで修業だ、十才で神童、二十才で才子、二十五になりや只の人と云ふ悪口もある、たゞの人になるなよ」

と妙な意見をした、これから馬之助に教へました、また上田も一心不乱、必死になつて學びます、教へる者と學ぶ者との熱心が合して其の猛烈なること火炎をはき出す様な活氣がある。

人は活氣のある者でなければ成功するは難かしい、威勢の宜い人間でなくば何をすればとて頭にはなれぬと

佐々木は折々上田始め門人に此事を云ふ、馬之助は三年佐々木に從いて學びました、中に佐々木は國許の筑後久留米の在に立戻つた、茲にて後進を引き立て劍術の流名を剛流と命名してそれより佐々木の姓を改めて島田と申した、島田見山の方が聞かえて居る様です、劍術の大家であり乍ら蘭學を研究した、さすれば普通の劍術の先生ではない、時勢の變動にも注目して居りました。

**市川魚問屋**

ウニヤキ 貝焼

魚問屋

店理代平命生本日本最大最優最志  
榮盛賀  
(三一二電)目丁四平

**梅毒** 淋病 皮膚病 婦人病 胃性

**林病** 腸胃病 十二指腸 腸虫病

院醫科 腸胃病 七〇一話電

**外科** 門專 X 科線光 X

**上田外科病院**

平町南町 電話一二九番

**玉屋洋品店**

平町南町通電話六五六番

**外科 X 光線科**

**性病科**

**外科科**

平町南町 意隨院入

**安齊外科醫院**

電話四七五番